第 2018-07 号

恵みと真理のニュース

2018 年 2 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

学業のストレスで酷いうつ病になって生きる希望まで失った私を神様は治療して下さり、教師のビジョンを与えられ成し遂げるように助けて下さいます

私は幼い頃から母をついて教会に通いながら教会学校の聖歌隊で奉仕しました。しかし、中学校を卒業するまで人格的に主に出会って体験したことなく習慣的に礼拝に参席し奉仕しました。これから美術を専攻したかったが芸術高校ではなく普通の高校に進学するようになりました。勉強が上手な学生達が多いと評判が良い学校でした。
中学生まで勉強するのに何の問題なかったが、高校に入って初めて受けた模擬試験と中間試験の成績を見て衝撃を受けました。美大進学だけ考えると良い成績だと言えますが、私の期待に比べたら大きく足りなかったり、姉と友達と比較してもあまりにもよくない成績でした。勉強と試験が大きい負担とストレスになりました。頭が良くて勉強も上手だし、何でもできる姉と比べたら私の姿はみずぼらしく見えました。母は一度も私と姉の成績を比較して話したり、私を叱ったことがないです。しかし、一人で劣等感に落ちて自らむち打ち挫折感と無力感から出ることが出来ませんでした。美術を習う学院でも自分の思い通りよく絵を描けられなかったです。。私が見ても実力が情けないでいくら努力しても私の状態が悪化されました。試験を受けた後、家で泣く日が多くなりました。このような状態を知るか知らないか、先生は“少し努力したら 等級が上がることが出来るとしました。他の学生達もするからあなたもできるから”私を催促しました。先生の話とたまに父が冗談のように話す言葉が"あなたもソウルにある良い大学に行かなくちゃ”と話を聞くと息が苦しくてすぐ外に逃げて世からなくなりたかった心でした。今も最善を尽くして努力しているのに、いくら努力してもなかなかよくならないとついに“私は努力してもできない人、弱くて情けない人”という考えが私の頭の中を支配しました。
1年生の冬の試験を受ける途中でした。急に試験の紙にある字が読められませんでした。。目の前が白くなり涙が出そうで、頑張って問題を読んで解こうとしても字がよく見えないし読められなかったので窓から飛び降ろしたかったです。そんな状況でも試験を終えた後、まるで狂ってしまうようで生きたく考えがして泣きながら精神科病院に連れて行ってほしいとしました。
寒い冬、若い17歳にうつ病の診断を受けました。医師から数回相談を受けて薬を飲んでみましたが、なかなかよく治らなかったです。終わりがない無力感と挫折感と深い悲しみに落ちて、私は役に立たない者だと考え生きる意味と理由を探せなくて仕方なく生きました。学校も辞めたくて全てを諦めたかったです。
母が"勉強しなくてもよい。代わりに母と共に平日礼拝を全部捧げて金曜礼拝と聖歌隊で奉仕しましょう。としました。当時、私は 同じ年頃の友達といるのが嫌で主日に母と共に大聖殿で礼拝を捧げています。頼む母の手に導かれ、その時から高校を卒業まで2年間こつこつと平日礼拝に全て参席して聖歌隊で奉仕しました。真の感謝することは心と体が一番痛くて大変だったこの時、私は真に主に出会って、主と交際しながら愛を感じ恵みを悟るようになりました。神様が御言葉と聖霊で神霊な慰めを与えて下さり新しい力をくださいました。
高校を終わるまで主は"私があなたと共にいるから恐れないで、私があなたを助けるからあなたは全てが出来ると”励ましてくださいました。苦難の中で喜ばれて生きる理由を教えて下さり、主が共おられると私は出来ないことがないと悟らせてくださいました。学院から戻って来て落胆して母と言い争って憂鬱になる時も主がただちに御言葉で慰めて下さり、聖霊様が私の心を平安で大胆にしてくださいました。 学業と入試を放棄しそうにして絵を描くのも学院で趣味としてするように私に神様が知恵と明哲を与えて下さり才能を与えてくださいました。そして、私の力で努力するときよりむしろ良い成績を得ることが出来ました。そのように神様が下さる慰めと励ましと希望の御言葉を聴きまた神様が共におられるのを経験しながら私はうつ病を勝ちました。そして、入試に良い結果を得って大学に進学しました。真で感謝してすべてが神様の恵みでした。
大学生活をしながら与えられた課題が多くて平日礼拝を休んで課題と勉強にもっと多くの時間を使ってよい成績を得ようとする誘惑に落ちる時が多かったです。そんな考えが思いだすことに私と共にしてくださり、恵みを下さった神様を考えました。またいくら経済的に豊かで体が楽でも心が主と離れたら地獄で生きるのと違いがないのを体験して、うつ病にかかった時を考え誘惑を勝ち平日礼拝も休まずに捧げました。神様を近づいて礼拝中心の生活をしたら神様は私の大学生活をもっと意味あってやりがいがあるようにして下さました。神様の恵みで4年間奨学金をうけて教授から良い評価を受けることが出来ました。
大学2年生になって神様が私に尊いビジョンを与えてくださいました。私が一番大変な時に出会った主と、主が下さった慰めと愛を私の学生の頃のようにそんなに痛くて苦しんでいる子供達に教え体験するように助けたい希望が出来ました。落胆して絶望する子供達、生きる希望もなく意味を探さなくさ迷うそんな子供達が主に出会って新しい人生、希望がある人生になるのを願いました。主に出会って主の愛を悟るようになると幸せに生きる子供達になるのに苦痛の中で極端的な行動をするのが可哀そうで気の毒でした。
美術治療士と教師になるため祈りながら主の御旨を求めました。神様は母を通して御言葉で答えて下さり私の心にも確信をくださいました。学校というところが嫌で勉強するのが一番嫌いだった私だったのに、神様が教師のビジョンを下さって従順し聖霊が導く道で進路を決めました。
美大生だった私が教師になると教育大学院で進学しなければならなかったです。ところが、卒業作品展示を準備しながら一方、教授、誰からも助けもなく一人で大学院試験準備まで、するのが容易ではありませんでした。担えられない事だったので大学院を行けなさそうで心配しましたが、もう辞めたい時もありました。しかし、そのときことに相変わらず私を愛して助けてくださる神様を信じて委ねて祈りながら進みました。他の人は学院に通いながら1年間準備しますが、私は短い時間準備して勉強をよくできなかったけど、願っていたコリョ大学院に合格しました。神様の恵みが望まれ可能な事でした。神様の御旨に合う素晴らしい先生になるためにはこれから勉強することと準備することがおおいです。しかし、もうこれ以上心配しなく、私に能力を与えて下さり、私のため働いてくださる主を完全に信じて、神霊な慰めと力を下さりビジョンを下さってこれを成し遂げるように導いてくださる神様に感謝と賛美してすべての栄光を神様に捧げます。

[信仰コラム]　神霊な情報と開かれた目

"...主はその若者の目を開かれたので、彼が見ると、火の馬と火の戦車が山に満ちてエリシャのまわりにあった。"(列王記下 6:14~17)

アハブ王が北の王国イスラエルを統治する時期にアラムがイスラエルを良く侵攻しました。しかし、アラム王が作戦の指示を下すとエリシャ予言者がこれを知ってイスラエルの王に知らせたので常にイスラエルが有利な戦略を広げました。この事実を知ったアラム王はエリシャが居住しているドタンに軍隊を送ってエリシャを逮捕してくるよう命じました。エリシャの召使が朝早く出てみたら軍隊と馬と戦車が囲んでいました。彼が恐れながらエリシャ予言者にこれを知らせたら予言者は"恐れることはない。われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから"と泰然自若に話しました。なのにも召使が恐れると"主よ、どうぞ、彼の目を開いて見させてください"とお祈りしました。神様がエリシャのお祈りをお聞きなさり召使の目を開いてくださいました。召使は火の馬と火の戦車がその山に満ちていてエリシャの回りにいるのをみました。この奇異で驚くべきな事件の記録には私達が受け入れなければならない神霊なメッセージがあります。
エリシャ予言者がアラム軍隊の作戦情報を事前に知ってイスラエル王に知らせ、備えた事実に神霊なメッセージがあります。
戦争だけではなくこの世を生きていくには多方面で質の高い情報を獲得するのが切実に必要です。そして私達が見過ごすことのできないことがもう一つあります。人生は罪とサタン、死亡との霊的な戦争をしているという事実です。聖書は人生を幸福と勝利に導く膨大な情報を含めており、その中で最も重大な情報が罪とサタン、死亡に対して勝利する方法に対する情報であります。聖書の情報を私達がそのまま受け入れて信じて従うと必ず成功的な人生になります。
エリシャ予言者が彼の召使のために"主よ、どうぞ、彼の目を開いて見させてください"とお祈りした事実に神霊なメッセージがあります。召使は視覚障害者ではありませんでした。神様が召使の目を開いてくださったのは肉親の目ではなく霊眼を開いてくださったのです。そしてエリシャがアラム兵士に対して"どうぞ、この人々の目をくらましてください"とお祈りすると神様がエリシャのお祈り通りに応答してくださいました。しかし、彼らが視力を喪失したのではありません。エリシャが"主よ、この人々の目を開いて見させてください"とお祈りすると神様が彼らの目を開いてくださり、彼らがサマリアのうちにいるのを分かりました。聖霊様は聖書に記録された高貴な情報を正しく認識するように心の目を開いてくださいます。従って、私達は聖書に記録された神霊な情報を正しく悟るよう聖霊様に求める心で聖書を読んで説教を聞くべきです。
エリシャ預言者が召使に"われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多い"としました。ここに神霊なメッセージがあります。
神様が召使の目を開いてくださる瞬間、召使は火の馬と火の戦車がその山に満ちているのをみました。アラム軍隊の馬より火の馬が、アラム軍隊の戦車より火の戦車が、アルム兵士より天軍がより多くいました。万が一、悲観する心になり挫折するとしたら心の目を開いてくださいと神様にお祈りしてください。皆さんにないことより神様が皆さんに与えてくださったことがより多いということを悟らせてくださるでしょう。万が一、不評と恨みが生じるとしたら心の目を開いてくださいと神様に祈ってください。皆さんにないことより神様から受けたことをより多いのを悟らせてくださるでしょう。
聖書は人生を誠な勝利と成功に進ませる完全な情報で満ちています。このような情報の核心はイエスキリストです。そして聖書に啓示された情報をその通りに信じて従う人は究極的な成功と勝利を得ます。多くの知識と経験を持っても霊眼を開いていないと見えないことを多いです。神霊なことは聖霊様が私達の目を開いてくださることだけで知ることができます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

生涯をまとめた記事（3）

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

ある人の一生を形容するとき波乱万丈あるいは波乱が重ねて来るという表現をしている場合があります。「波のように起伏が激しい。あるいは「困難や試練が波のように重ね波立つ。」という意味です。人の一生が概ねいっても過言ではありません。平坦な一生であれ険しい一生でも人の一生において最も重要なことは、神との関係です。神との関係の如何によって彼の一生が空しく無意味になったり、福されて価値になります。滅亡されようか救われるかこの二つでどちらかの一つになります
そして、彼は一生に神に向かってどのように住んでいたに基づいて、天国で得ることができる報いの栄光が決定されます。聖書には、これらの差分について記録された言葉がたくさんあります。したがって、我々は、見本に向かって力を尽してください。三週間にわたって調べる」生涯をまとめた文「その見本に対応します。過去 2 週間のに「彼は神に喜ばれた者だ。」「 ノア はすべて 神の 命じられたようにした 」と要約されている生涯について説明しました。今日は 「彼は主イエス・キリストを変わらず愛して住んでいた」と要約されている生涯について説明します

人の本質と状態は、神が創造された最初のものより悪く変質された。これはサタンの誘いに陥って神の命令に逆らって善悪を知る木の実を取って食べたからです。そして、アダムの子孫であるすべての人は、神との関係で罪人で生まれました。罪人は、神の怒りの下にあり、死と同時に滅亡されます。滅亡とは地獄の刑罰に処するようになることを意味します。ところが、あわれみが豊かな神が罪人を救うために驚くべきの計画を立て、これを宣言しました。罪人が義人に変化される道を備えたのです
「だれでも キリストにあるならば， その人は 新しく 造られた 者である． 古いものは 過ぎ 去った， 見よ， すべてが 新しくなったのである」（ コリント人への第二の手紙 5:17）としました。このような変化は、人の方法と努力でなることがありません。完全に神様の恵みによるの変化です。この変化を詳細に説明してくれる言葉が ヨハネによる福音書 3 章にあります。「 だれでも 新しく 生れなければ， 神の 國を 見ることはできない 」とイエスが自ら言われました。「新しく生まれ」とは、人に決定的に重要な変化の体験です。 新しく生まれと文字の通り ″生まれ変わること」を意味します。生まれ変わる事件は人の理解を超えた神秘的事件です

ニコデモが夜中にイエスに会いに来ました。イエスは心中を見抜い見て「人が新しく生まれなければ、神の国を見ることができない。」と単刀直入に言われました。

ニコデモが質問するのを″「人は 年をとってから 生れることが， どうしてできますか． もう 一度， 母の 胎にはいって 生れることができましょうか 」．と、イエスは言われた。「よくよくあなたに 言っておく． だれでも， 水と 靈とから 生れなければ， 神の 國にはいることはできない．
肉から 生れる 者は 肉であり， 靈から 生れる 者は 靈である． あなたがたは 新しく 生れなければならないと， わたしが 言ったからとて， 不思議に 思うには 及ばない．風は 思いのままに 吹く． あなたはその 音を 聞くが， それがどこからきて， どこへ 行くかは 知らない． 靈から 生れる 者もみな， それと 同じである」

そして、「神はそのひとり 子を 賜わったほどに， この 世を 愛して 下さった． それは 御子を 信じる 者がひとりも 滅びないで， 永遠の 命を 得るためである。」（ヨハネによる福音書 3:16）結論的な言われました。十字架につけられ死なれ、人間の罪を贖いしたイエス・キリストを信じる人は、罪の洗いを受け、聖霊に生まれ変わらされる変化を受けるようになります。違っいって、新しい被造物になります。これが「新しく生まれ」です。これは霊魂に起こっている変化であり、本質的変化です。「だれでもキリストにあれば新しい被造物だ」としました
生まれ変わる変化を受けた人々に従う別の変化があります。それは主イエス・キリストを愛するようになる変化です。
神への信仰は、3 つの要素があります。知識と信仰と愛です。イエスは人々に「あなたはわたしをだれだと言うのか？」「あなたはわたしを信じるか」「あなたはわたしを愛しているか」と尋ねられます。神についての知識があっても、信仰のない人がいます。信仰があるが 主への愛がない人がいます。主への愛がなければ、彼が言う信仰と知識は無駄になります。聖書のどおり神を知って信じ、主の愛に感激していない人がいません。主への愛が心の中で湧きせるされます。主なる神への愛は、神の愛を体験することで生じるようになります
神の愛の中で最も強烈な愛は、イエス・キリストを通して現された愛です。ヨハネの手紙第一 4 章 10 節に記録されるのを「わたしたちが 神を 愛したのではなく， 神がわたしたちを 愛して 下さって， わたしたちの 罪のためにあがないの 供え物として， 御子をおつかわしになった． ここに 愛がある」しました。罪の中に生きて死んで滅亡する罪人を救うため神は彼のひとり子を世に遣わされた愛そして神の意志に完全に従順して私たちの罪を担当して十字架につけられ死なれたイエスの愛は、人間の理解を超えている愛です。
イエスの弟子ペテロは、イエスが誰なのかを知って信じました。イエスは弟子たちに、「あなたがたはわたしをだれと言うのか？」と尋ねた時、ペテロがすぐに答えを「主はキリストであり、生ける神の子です」と答えました。しかし、ペテロは、脅威を受ける状況に置かれるとき、イエスを知らないと否定しました。軍隊と千卒長とユダヤ人のけらいがイエスを捕まえ縛りました。イエスは、罪人を救うために、苦難を受ける必要があったので素直に逮捕できていました。兵士たちは、イエスを縛って、まずアンナスのところへ連れて行きました。アンナス大祭司カヤパの長人でイエスに罪をかぶっかぶせ殺そうとして、自分が直接尋問しようとしたものです

イエスが逮捕され、連行され行くとき、弟子たちはすべて逃げました。ペテロとヨハネだけが、イエスの後をついてアンナスの家に入りました。その女僕がペテロに言った、「あなたもこの人の弟子ではないか？」としました。「私ではない。」とすぐに答えました。アンナスがイエスから何の疑いを見つけられないと、イエスを縛ったまま大祭司カヤパのところに送っていました。その夜に大祭司カヤパの家には、イエスを尋問するためにサンヘドリン議会の小委員会が招集されました
ペテロはその場所にも付いていきました。そこでも彼を知って見る人々がいました。 「あなたもその弟子の一りではないか？」と言いました。 「私ではない。」と、ペテロがすぐに否定しました。その中の一人は、イエスを逮捕する現場にいた人で、ペテロがイエスの弟子であることの決定的な証拠を持ってペテロに尋ねました。ペテロが再び自分はイエスの弟子ではないと否定するときに鶏が泣きました。イエスがゲッセマネの園に登る時にペテロに言われた ″あなたが鶏鳴く前に三回私を否定するであろう。」しました。ペテロは、イエスを見て恐怖に包まれました。そして、自分はイエスの弟子ではなく、イエスを知らないと公に否定しました。しかしながら、イエスを愛する心が変化したので否認したではありませんでした。脅威を感じて恐れていたからです。ペテロは、自分の行動が嘆いでした。そして外に出て行って号泣しました
その後ペテロは復活されたイエス様を他の弟子たちと一緒にビーチでお会いしました。その場でイエスは、連続して 3 回「あなたはわたしを愛しているのか」という質問をペテロになさいました。ペテロは、3 回とも「はい、私が主を愛することを主がご存じです。」と答えました。イエスはペテロに、「私に従いなさい」と言われました。真の愛は犠牲も辞さない行動が必要があります。その日以来、ペテロはイエスを信じて、福音を伝える事になんの犠牲が求めても厭わなかった。結局、ペテロは主にの変わらない愛を殉教として示した。イエスの十二弟子のユダを除く弟子たちは皆私たちの主イエス・キリストを変わらず愛している者になりました。
今日の本文に記録されるのを「私たちの主イエス・キリストを変わらず愛するすべての人に恵みがあるように」としました。

三週間にわたって「生涯をまとめた文を説明しました。そのような生涯であれば、もはや望むことがありません。あなたの生涯は「彼は神を喜ばれて者だ。」「彼は神が命じられたとおりに行いながら住んでいました。」「彼は主イエス・キリストを変わらず愛して住んでいました」と要約することができると思います